

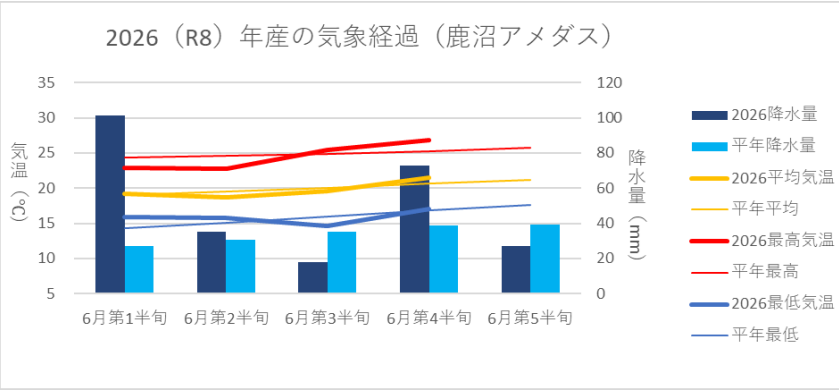
令和8(2026)年産 水稻生育診断速報第3号

令和8(2026)年6月24日
上都賀農業振興事務所

- 茎数が確保されている場合は「間断かん水」を継続し、分げつが過剰にならないようにしましょう。
- 低温が予想される場合、深水管理を行い、不稔発生を防止しましょう。
- 葉いもち防除及び畦畔除草のタイミングを逃さないようにしましょう。

気象経過(6月第1半旬～6月第4半旬・鹿沼アメダス)

平均気温は、概ね平年並に推移しました。期間の降水量は、台風6号や梅雨前線の影響もあり、173%とかなり多く推移しました。(6月21日現在)



調査結果の概要(コシヒカリ)

過去5年の平均と比べ、草丈は「平年並～やや短く」、葉色は「やや濃い」状況で、葉齢は「1葉程度進んで」いました。(生育は、昨年並みに進んでいます。)(調査データ)

調査地点	項目	草丈 cm	茎数 本/m ²	1株茎数 本/株	葉齢	葉色板	
						葉色板	SPAD
日光市木和田島	今年	51.8	486	25.8	10.6	3.8	38.2
	過去5年平均	55.7	555	28.8	9.7	3.4	38.1
	平均値との差	-3.9	88%	-3.0	0.9	0.4	0.1
鹿沼市久野	今年	54.4	501	31.2	10.9	4.5	41.3
	過去5年平均	55.2	443	27.6	10.0	4.1	39.8
	平均値との差	-0.9	113%	3.6	0.9	0.4	1.5

※移植日は、日光市5/4、鹿沼市5/5

今後の技術対策

(1) **目標茎数(コシヒカリ 60 株/坪植えて 18～20 本/株程度)**が確保されている場合は、**間断かん水を継続**し、分げつが過剰にならないようにしましょう。

茎数が確保されていない場合は、引き続き、夜間かん水、日中止水(浅水)とし、分げつの発生を促進しましょう。

(2) **最低气温が17℃を下回る**場合、不稔発生の危険性が増加します。**深水管理**を行い、不稔防止に努めましょう。

前歴深水かんがい期	出穂25～15日前	水深約10cm
危険期深水かんがい期	出穂15～5日前	水深約20cm

(3) いもち病(葉いもち)対策
6/20に鹿沼と塩谷で感染好適日が出現しています。
ほ場を見回り、**発生時には速やかに薬剤散布**をしましょう。

(4) 斑点米カメムシ対策:初期飛来を防ぐため、**水田内と畦畔の除草**を行いましょう。(詳しくは次ページ参照)

<現在の稲の状況(6月22日撮影)>



写真1 日光市木和田島



写真2 鹿沼市久野

令和8年産米・病害虫防除特集

1 斑点米カメムシ類



クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ アカスジカスミカメ アカヒゲ ホソミドリカスミカメ イネカメムシ

写真3 上都賀地域における主要な斑点米カメムシ類

これらの斑点米カメムシ類は水田に飛来し、水稻の穂を吸汁して斑点米を発生させます。特に、**高温年では吸汁活動が活発になり、被害が甚大になります。**

畦畔等の除草と薬剤防除を組み合わせた対策を取るとともに、水田及び周辺の畦畔をよく観察して、斑点米の発生防止に努めましょう。

水田周辺の除草

- ① 1回目：水稻の出穂2～3週間前
 - ② 2回目：水稻の出穂期
(1回目に行ったイネ科雑草が出穂する前)
- 2回の草刈り

注1 ①だけでは、イネ科雑草が再出穂してカメムシ類が飛来するので、効果が下がります。
②だけでは、イネ科雑草の穂に集まっていたカメムシ類を水田へ追い込み、水稻の穂を集中加害させることになります。

①② 両方の除草ができない場合は、**水稻の出穂期10日前までに除草を済ませましょう。**

薬剤防除

- ① 1回目：出穂期～出穂10日後まで
 - ② 2回目：1回目から7～10日後
 - ③ 3回目：2回目から7日後（多発地）→ 粒剤
- 液剤

注2 ③中山間地（多発地）において、液剤（2回）と粒剤（1回）を組み合わせた3回防除が有効です。（3回目に粒剤散布を行うことで、登熟期後半までカメムシの幼虫の加害を抑制し、斑点米の発生を低減することができます。）



写真4 斑点米カメムシ類のエサとなる主な雑草

2 紋枯病

感染すると、株元で灰色～茶褐色の病斑がみられ、次第に下葉から枯れ上がり、稲の茎が弱くなって倒伏しやすくなります。

夏季の高温や茎数が多く過繁茂になってしまった場合、発生が助長されます。穂首まで感染してしまうと登熟不良になりますので、**水際部で初期発生がみられたら、幼穂形成期から乳熟期にかけて薬剤散布**を行いましょう。



写真5 紋枯病

3 稲こうじ病

イネの幼苗期から出穂期に至るまで病徴はなく、出穂した穂の籾に暗緑色で球形の病粒が発生し、もみや玄米等の汚れの原因となります。

ほ場の土壌中にある病原菌が葉鞘内部に侵入すると考えられており、その部分に局在しているため、防除期間が短く、注意が必要です。

昨年発生が見られたほ場では感染リスクが高いため、**出穂21～10日前に銅を含む薬剤で防除**を行いましょう。



写真6 稲こうじ病

【最新情報はコチラから！】

上都賀地域の
米づくり情報



栃木県カメムシ
防除作戦



農業総合研究センター
病害虫発生予察情報



栃木県防災
LINE

